第 119 回日展

第 1 科（日本画）　特選授賞理由

題名　**いのち、薫る**　　作者名　**木村真光**

授賞理由

鮮烈な色彩と絵具の流動が生む力強い造形は、生命の生成と変容を鮮やかに映し出す。素材の物質性と作家の感性が拮抗し、生命の根源的な躍動を独創的な絵画世界へと昇華させた表現力を高く評価する。

題名　**ドルチェな日**　　作者名　**中村妃菜**

授賞理由

異国の建物を描いている。建物のようで船のようにも見える。また、生き物のような表情も見せる。様々な形の窓がアクセントになり見る物の心に訴える情感が素晴らしい。確かな技術力に支えられた作品である。

風の運ぶ夢　　**小山大地**

授賞理由

この作品には、何か不思議な力があり、今後日展に新しい風を吹き込んでくれる予感がする。ブルーと黄土の色調も美しく、テーブルに置かれた模型や揺れるカーテンから、確かな人物の存在を想像させてくれる。

生息地　　**福本百恵**

授賞理由

本来の生息地ではない場所に生きることを課せられた鳥達をテーマとしたこの作品には、リアルな現代を見つめる作家の姿勢と個性的な着眼センスが、鮮やかな色感を駆使した高い筆力ではっきりと描き出されている。

Aluhi・願い　　**榊原孔美子**

授賞理由

繊細な描写と淡く清澄な色彩が、生と死、現実と現象の境界を溶かし、幻想的な世界を生み出している。生命の存在と不在を静かに問いかけ、祈りにも似た深い精神性が画面全体に美しく息づいている。

息　　**森　　花**

授賞理由

雪をまとった枝々の重なりを丹念に描き、白から灰色へと移る繊細な濃淡で積雪の量感を表している。描き込まれた樹林と淡く広がる雪道が響き合い、雪深い山あいの静けさを感じさせる作品である。

ゆるやかに移ろう　　**櫻井伸浩**

授賞理由

墨の深遠な階調と金箔の輝きが響き合い、自然に宿る生命の気配を描き出す。精緻な鳥の描写と重層的な空間構成を通して、生と時の移ろいを静謐な詩情として表現した造形的完成度が際立つ。

遺構　　**森谷篤子**

授賞理由

黒を基調とした今作からは色彩の深さに加え、縦型画面を存分に活かした構成力の高さが強く感じ取られた。空気や音、匂いなど、五感で捉える現場感まで描き切った様なその写実性は充実度も高く秀逸である。

バタフライ エフェクト　　**立花大聖**

授賞理由

咲き誇るひまわりも、永遠の生命の象徴ではない。その避けがたい運命が人物の表情と響き合うことで、画面には生の輝きと、その背後に潜む喪失の気配が濃密に漂っている。そこにこの作品の深みがある。

野の道　　**渡辺静子**

授賞理由

篠竹が茂る隙間から覗く白い道が印象的作品である。しなやかな強さの植物の生命力が色彩、構成と相まってとても効果的である。人の生命(いのち)との繋がりが表現されているところに魅力を感じた。